授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2427 号

Psychological transition characteristics of patients diagnosed with asbestos-related mesothelioma

（アスベスト・中皮腫と診断された患者の精神的移行の特性）

葛西　好美（かさい　よしみ）

博士（医学）

論文内容の要旨

アスベスト・中皮腫は環境的要因で生じる予後不良な稀少疾患であるために、患者の身体的・精神的苦痛が大きく、治療やケアに難渋している。そして、中皮腫患者が精神的な混乱状態から生活を再構築するまでの移行過程や、患者の緩和ケアのゴールや手法に関する見解の一致は見られていない。本研究の目的は、胸膜中皮腫患者の精神的移行の経験を患者自身の語りから探求することである。都内大学病院の呼吸器外科または呼吸器内科に通院中の胸膜中皮腫患者 5 名を対象に、半構成的インタビューを約 2 年間にわたり実施した。データ分析は解釈学的現象学的方法を用いて質的記述的に実施し、胸膜中皮腫患者の精神的移行の態度と行為を抽出し関連を見た。

胸膜中皮腫患者の精神的移行の態度について“症状を管理し自立した生活を続ける”“動揺の中で不治の病を受けとめる”“不確かな情報の中で治療と人生を決定する”“ポジティブな家族関係を保つ”の 4 側面が明らかになった。また、精神的移行の態度に関連する行為は、“セルフケアの方法を創造する”“アスベスト曝露や中皮腫の情報を収集する”“自己の経験や他患者の闘病経験を通して死を受け入れる”“家族、同僚、ケア提供者から情緒的支援を受ける”“病院医療者とのラポートを積極的に作り効果的な治療を受ける”“救済・補償を受ける”の 6 側面であった。

胸膜中皮腫患者の精神的移行は、患者の苦痛症状の管理、中皮腫や死への受けとめ、治療や人生の意思決定、家族関係の側面での変化、混乱、再構築として示された。患者の生活の質や死に逝く過程の質を高めるためには、症状緩和の自立支援、診断早期からのチームによる精神的支援、意思決定に必要な情報提供、家族支援を実践し、患者の肯定的な精神的移行を促すことが重要である。また、対象患者は 5 年以上生存しており、療養の長期化に伴う患者の身体的・精神的・経済的な負担軽減や、家族介護の救済や補償などの対策の検討も求められる。本研究により中皮腫患者のケアの視点や、患者の精神的移行の特性に関して一般化を目指し統計的検証を行うための枠組みが提示された。